

シヤン州避難民支援報告書

2016年2月3日
地球市民の会 柴田京子

【経緯】

シヤン州では2015年10月10日朝、国軍が2機の軍用機で北部シヤン州軍とシヤン州進歩党が入居する本部の建物を爆撃した。シヤン州進歩党の党員が国軍の幹部を銃殺したことによる報復とみられる。その後選挙当日である11月8日を除き断続的に戦いが繰り返された。

ミヤンマー総選挙後の11月9日、シヤン州ワンハイ郡区ではミヤンマー国軍と北部シヤン州軍による武力衝突で、住宅や寺院が破壊された。住宅の住民と寺院の僧侶は避難していたため、けが人はなかった。

10月に引き続き、11月9日夜にも2機の軍用機が北部シヤン州軍とシヤン州進歩党の本部を爆撃した。また、北部シヤン州軍は国軍の拠点と警察署への攻撃を行った。数週間にわたる武力衝突により、約7000人もものWan Hai郡区の住民は同郡区を離れて避難している状況であった。

10月15日、8つの少数民族武装勢力とミヤンマー政府は全国停戦協定(NCA)に合意した。しかし、シヤン州進歩党と北部シヤン州軍は現在も全国停戦協定に合意していない。(2015年11月14日付「MJIT ミヤンマーニュース」より)

11月28日に第1回支援金受け渡しのために、タウンジー市内の僧院を訪れた際には、戦地からかなり離れた場所であるにも関わらず115名の避難民が僧院に滞在していた。避難民は女性と子供がほとんどで、男性は危険を承知で戦地に残り、家畜の世話や畑仕事をしているとのことであった。

その後、12月末には戦況が落ち着き、避難民キャンプや僧院から村に帰る人が出始め、第2回目の支援金受け渡しのためにNamp KhoneTai Charitable Organization(NKCO)を訪れた際には、避難民は全員村に帰っていた。しかし、内戦によってコメの収穫時期を逃したため、今後の食糧に不安があり、現在2016年3月までの食糧の蓄えはあるが、次のコメの収穫が9月であるため、4月～8月の食糧が不足している状況である。食糧の他に、医薬品、衣類も慢性的に不足、NKCOを中心に今後とも支援を続けていく予定である。

【ご支援いただいた内容】

1)現金

日本よりのご寄付：1,475ドル

ヤンゴン在住のグリーンヒルのお客様よりのご寄付：(1回目)47,500ks、(2回目)21,000ks

日本から現地を訪れたお客様よりのご寄付：50,000ks

合計：2,026,700ks

2)衣料品

(株)ボーダレスジャパン様よりご寄附：大人服、子供服

ヤンゴン在住のグリーンヒルのお客様よりのご寄附：子供服

【ご支援の使途】

1)現金

第1回受渡し(47,500ks)：ワンハイ地区の医療品と毛布、食糧のために使用。

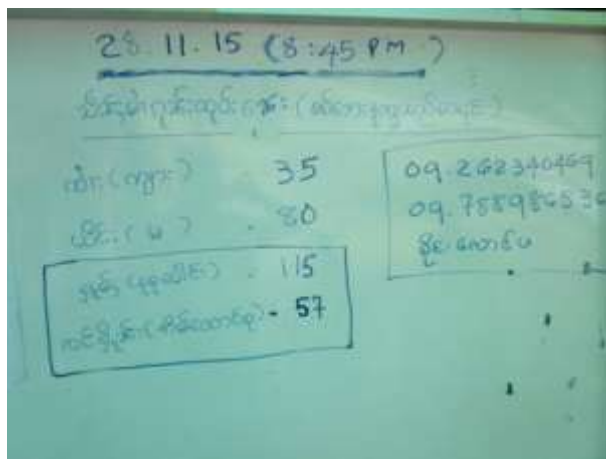
第2回受渡し(1,975,200ks)：ハイパー地区の60世帯、約300人のコメ1か月分に使用。

コメ1袋33,000ks×60袋=1,980,000ks(不足分は他の寄付より充当)

2)衣料品

ワンハイ地区の避難民キャンプとハイパー地区の家庭へ寄付。

【写真報告①】2015年11月28日撮影。タウンジー市内の僧院にて。



(左)第一回支援金受け渡しの様子。(右)避難民の数を書いたホワイトボード。男35名、女80名。



(左)実際に戦闘地に行った方々にお話を聞く。(戦闘地は外国人立ち入り禁止地域) (右)避難生活を送る子どもたち。



一時的に保管されている支援物資。



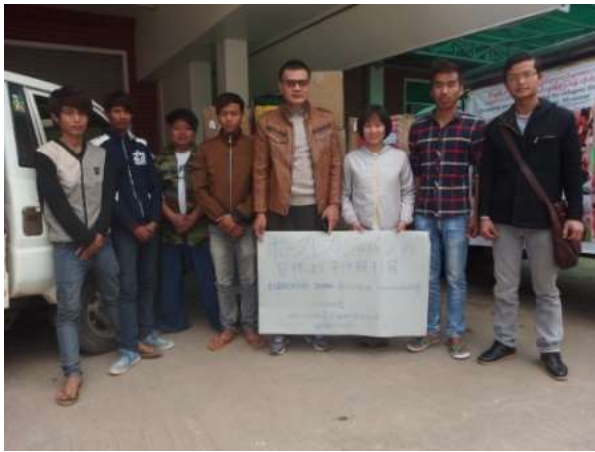
避難民は女性や子供がほとんど。



【写真報告②】2015年12月31日撮影。タウンジー市内の僧院にて



(株)ボータレスジャパン様からの衣料品受け渡しの様子。



(左) 荷物を郵便局から僧院まで運ぶ手伝いをしてくれたシャン族の若者たち。(右) お坊さんから寄付の受領証を受け取る様子。

【写真報告③】2016年1月19日撮影。NKCOにて。



(左) 戦闘地の状況を NKCO の代表者に聞き、どのような支援が必要かを話し合っている様子。
(右) 第二回支援金の受け渡し。



第二回目の支援金で購入されたコメ 60 袋。「TPA、グリーンヒル/日本の皆様からのご支援」と米袋に印刷されている。



(左)ご寄附いただいた衣服の受け渡しの様子。(右)NKCO の代表の方々と。後ろに見える救急車や
霊柩車は、必要な時には NKCO から借りられる。その他にも貧しい人のための無料診療所も運営。
看護師研修も行っている。